

福島県リハビリテーション専門職学術集会 2018 開催される

～県内初の取り組み 県内の PT・OT・ST が集い互いの研究に関心～

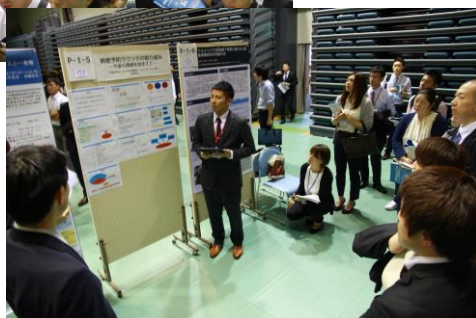
平成 30 年 9 月 2 日（日）に郡山市の郡山ユラックス熱海で、「福島県リハビリテーション専門職学術集会 2018（第 19 回福島県理学療法士会学術集会/平成 30 年度福島県作業療法学会/平成 30 年度福島県言語聴覚士会研究発表会）」（主催：福島県理学療法士会 共催：福島県作業療法士会・福島県言語聴覚士会 大会長：二瓶健司（星総合病院） 実行委員長：武田純一（太田西ノ内病院））が開催されました。県内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が合同で行う学術集会としては初めての取り組みで、「ともに学び、ともに歩む、地域に根ざした自立支援」をテーマに、職種を越えた意見交換やディスカッションが行われました。

冒頭では、福島県理学療法士会・山口和之会長が同学術集会開催に向け、「活発な意見交換を望む」など、参加者らに訴えました。来賓の郡山市長・品川萬里氏は、「県民の健康を支えていくため頑張ってもらいたい」と県内セラピストに対する期待を寄せ今後の活動へエールを送りました。公開講座では「地域をつなぐリハビリテーション栄養 ～医療・介護・保健・福祉の地域連携を深めるフレイルとサルコペニア予防～」をテーマに、若林秀隆氏（横浜市立大学附属市民総合医療センターリハビリテーション科講師（医学博士））が、臨床場面で活用できる、低栄養やサルコペニア、フレイルの評価方法、実践例などを紹介しました。会場には一般参加者も多く、活発な意見交換が行われました。また、同学術集会では、多くの演題が発表されました（口述演題 33、ポスター演題 48）、各職種がセッション内で意見交換や活発な質疑応答が行われました。閉会では、福島県作業療法士会・長谷川敬一会長と福島県言語聴覚士会・阿久津由紀子会長が挨拶を行い、県内セラピストの未来への思いと希望を会場の参加者らに伝えました。同学術集会では、職種の持つそれぞれの特性を共有し、ともに学び、共に歩むことの重要性を再確認できた時間となりました。

会報誌編集委員長 折内英則



（写真上）会場を埋め尽くす参加者
（写真右）活気あふれる演題発表



リハビリテーション栄養やサルコペニア、フレイルについて話す若林氏